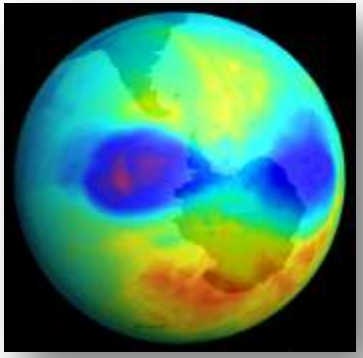
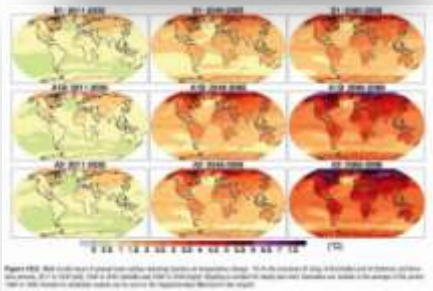
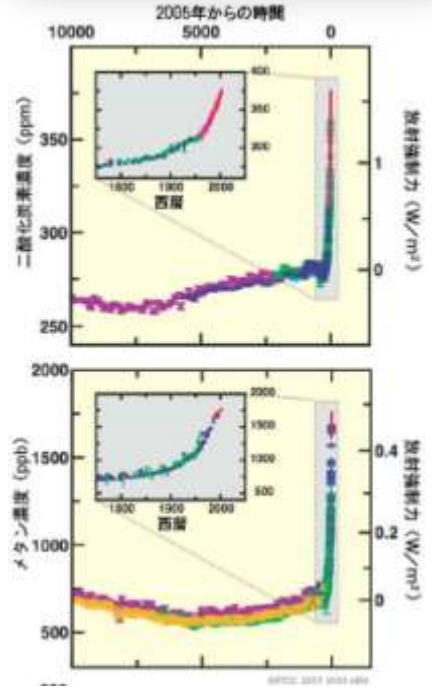
■ 未来世代の人々の運命を背負っている我々の決断

地球温暖化・地球環境問題は，21世紀の直面する人類の課題であり，人間の安全保障の問題であることは，国際社会の基本的な認識である．気候システムには慣性があり，地球環境がさらに悪化してから手を打ったのでは安定化は極めて困難である中で，今後も，米国，中国，インドなどが温室効果ガスを大量に排出し，10億人を超える人口を抱える国々での環境汚染問題が，益々深刻化していることが危惧されている．

現在の地球環境問題は，化石燃料の大量消費，人口の急増に伴い人間活動が地球規模に膨張したことが主因である．世界の人口は1650年に約5億人，1800年に10億人，1960年には30億人，その40年後の1999年には60億人に，そして，2050年頃には90億人（中国とインドの2カ国の合計で1960年の世界人口レベルの約30億人）になると予測されており，急激な世界人口の増加，爆発である．大量生産・大量消費・大量廃棄型社会は，この指数関数的な人口増加・爆発の中で破局を迎えることが危惧されている．その中で，世界最大の温室効果ガス排出国である米国は，経済への影響を理由に京都議定書に参加していない．しかし，世界経済は地球環境が安定している中で成立しているのである．レスター・ブラウンは「“環境は経済の一部ではない。経済が環境の一部である。”という“エコ・エコノミー”」を提唱している．自然災害が多発し世界各地で甚大な被害が生じ，世界の水・食料資源などが激変すると，世界の人々に影響を与えるとともに，安全保障や世界経済にも影響を与えるのである．

我々は，子供たちと人類の未来のために，長い地球の営みの中で生成された豊かな恵み・資源をただ消費するだけでなく，人間活動による地球環境への影響を認識し，より良い未来を築くために行動すべき時期に生存している世代である．我々の行動・決断は，この地球に住む子供たちと共に，未来のすべての世代の人類と生物の運命をも背負っているのである．

2009WMC　田中好雄

画像：南極オゾンホール/NASA，　世界平均気温の推測・温室効果ガスの推移/IPCC第4　次報告書